

## マイカー生活の構造的把握

朝日通総合研究所 経済研究部 山田 芳隆

### 1. はじめに

わが国のモータリゼーションは成熟期をむかえつつある。2人以上の普通世帯における乗用車保有率が、昭和58年には60%の六台に達したのをはじめ、2台以上の四輪車をもつ複数保有世帯、過去に4回以上の車の買い替えを行なった世帯の割合がそれぞれ20%、25%を越えるなど、ますますマイカーは生活のなかに溶け込みつつある。[1]

こうしたことを背景に、交通政策にも変化がみられる。マイカーは従来、「公共交通機関に敵対するもの」「交通弱者を顕在化させるもの」と位置づけられることが多かったのであるが、近年では、国民生活の質を全般的に向上させているとの認識から、交通政策上より積極的に位置づけられるという動きがみられる。

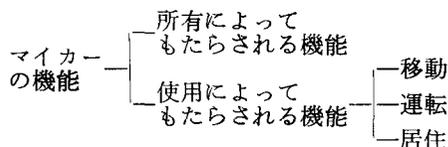
マイカー社会の見直しにともない、マイカーが生活のなかでどのように位置づけられ、使用され、そして生活の質を向上させているのかという視点からの分析が必要となってこよう。本稿では、筆者がかかわった「マイカー生活時間調査」[2]の結果を中心に、こうしたマイカー生活の構造分析をシステムズ・アプローチ的にすすめていくうえで、重要と思われる点について述べる。

### 2. マイカーの多機能性

マイカー生活の構造把握上重要な点は、マイカーのもつ機能をどうとらえるかである。マイカーのもつ機能は「目的地までの移動」だけではない

のである。たとえば、マイカー規制が必ずしも成功していないのは、「移動手段」としての機能のみを公共交通に代替させ、マイカーのもつ「居住」、「運転」などの機能まで代替させていないからである。

マイカーのもつ機能は次のように整理できる。



所有によってもたらされる機能として、代表的なのはステータスの表現であろう。近年では、さすがにマイカーをもつことそれ自身がステータスの表現とはならないが、外車など高級車や4WDなど個性的な車の所有は現在でもステータスの表現となっているものと考えられる。

使用によってもたらされる機能は、「移動」「運転」「居住」に分けられる。「移動」は、目的地までの交通機関としての機能であり、「運転」は、運転の楽しさを味わわせてくれる機能である。

「居住」の機能は、いままで交通政策上からはあまり重視されていなかった機能である。車は密室性、専有性をもった移動空間であり、会話・ふれあいの場、リスニングルーム、個室といった第2の居住空間として使用されているのである。(図1)

### 3. 世代によるマイカー生活への意識差

各国における現在の乗用車保有率は、20年前の各国の1人当り所得水準で説明できるといわれている。これは、所得水準とマイカー社会の成熟度とのあいだに20年のタイムラグがあるという意味に解すことができよう。

こうしたことが生ずる理由として、道路網などインフラの整備に時間がかかることのほか、各個

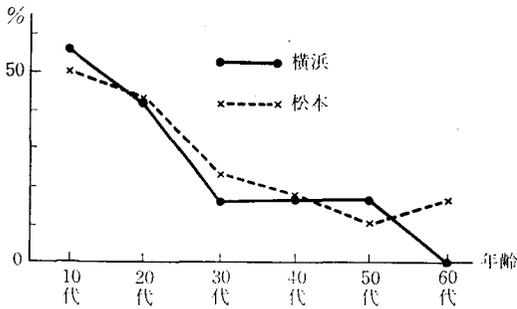


図1 車を第2の居住空間として利用することがある人の割合 [2]

人のマイカー生活への意識が生まれ育った時代的環境に支配され容易には変化しないことをあげることができよう。マイカー生活への意識は世代によって異なるのである。たとえば、マイカーの居住空間としての利用割合などは、世代によって大きな違いをみせている。(図1)

世代間格差が大きいということは、この先10~20年後のマイカー生活が現在とかなり異なった様相となりうることを意味している。将来のマイカー生活の動向をとらえる意味からも、構造分析にさいしては、世代という属性を重視することが必要となるのである。

#### 4. 地域によるマイカー生活の構造差

もう1つマイカー生活の構造分析にさいして欠かせない視点は、大都市、地方都市、農村など都市化の進展度合による構造の違いである。

図2は、マイカーのトリップを使用目的、同乗者の種類などによって5つのパターンに分類したものであるが、横浜では「ライフチャンス拡大型」が多いのに対して、松本では「基本的必需型」が多いといった傾向がみられる。マイカーは公共交通の不足する地域においてその代替機関となっていることもさることながら、大都市においても女性の社会進出な

ど家族生活の質的变化をサポートしているのである。

マイカーは、都市部と農村部との生活の質を平準化させることに貢献しているが、このことを逆からとらえれば、都市部と農村部ではマイカー生活の構造が異なっていることになる。

#### 5. おわりに

従来、マイカーに関する調査研究は、行政および自動車産業におけるニーズを背景に行われてきたが、マイカーと生活とのかかわりについての分析はいずれにおいても十分ではない。交通政策面からの調査研究は、マイカーを「交通機関のなかの1つ」としてのみとらえ、生活のなかでのその多機能が考慮されていない。いっぽう、自動車産業における調査研究は、公開されているものをみれば「商品」としての把握が中心であり、生活をどのように変化させ向上させているかまで踏み込んでいない。

マイカー社会がここまで日常的になっている以上、公共交通の衰退や交通混雑の激化、あるいは

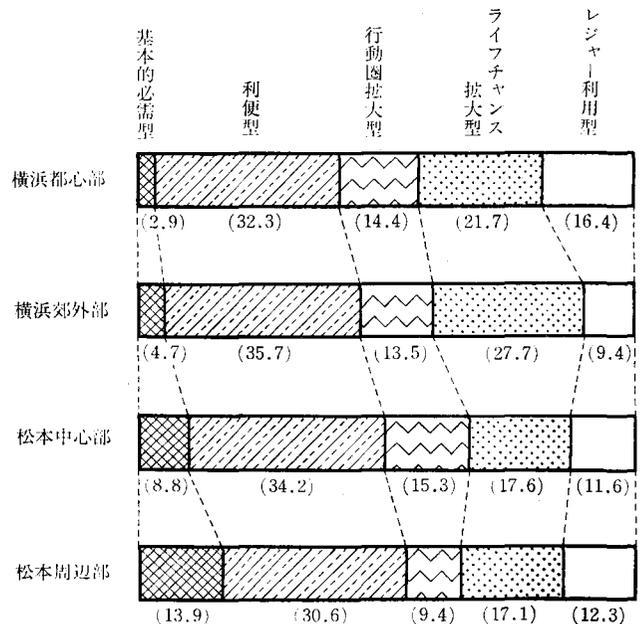


図2 マイカー利用のパターン [2]  
(注) カッコ内は構成比 (%)

エネルギー需給の逼迫などの理由によって安易にマイカー規制などを行なうことは、国民生活のパターン、質を大きく変革させてしまうことにつながる。このことへの認識を深めるためにも、女性の社会進出や高齢者の増加と複数保有形態との関連など、マイカー生活の構造分析をさらにすすめることが必要と考える。

## 参 考 文 献

- [1] 自動車工業会：昭和58年度乗用車市場動向調査，1984
- [2] 社会調査研究所：マイカー生活時間調査，総合研究開発機構，1983
- [3] 運輸調査局：地方都市圏における車と生活のかわり，1983

---

IFORS 加盟の各国OR学会の住所をお知らせします。1984年最新版です。  
国際会議の問合せ，文献入手などにご利用ください。(第3回)

### 10. EGYPT :

Operations Research Society of Egypt(ORSE).  
PRESIDENT: Dr. Awad Mokhtar HALLODA,  
Mahmoud Sedky St. 4, Zamalik, Cairo  
REPRESENTATIVE: Dr. Amr K. MORTAGY,  
The American University in Cairo, 113 Kasr  
el Eini St., Cairo  
SECRETARY: Dr. Mohamed Ibrahim YOUNIS,  
Academy of Scientific Research and Technolo  
gy, 101 Kasr el Eini St., Cairo

### 11. FINLAND :

Suomen Operaatiotutkimusseura Ry (Finnish  
Operations Research Society (FORS)).  
PRESIDENT: Dr. Christer CARLSSON,  
Dept. of Business Adm., Åbo Academy,  
Henriksgatan 7, SF-20500 Åbo  
REPRESENTATIVE: The President and  
Prof. Markku KALLIO, I. I. A. S. A., A-2361  
Laxenburg, Austria  
SECRETARY: Harri MAKITIE, Pormestari-  
nrinne 2-3 B 11, SF-00160 Helsinki

### 12. FRANCE :

Association Française pour la Cybernetique  
Economique et Technique (AFCET).  
PRESIDENT: Jean-Paul de BLASIS, AFCET,  
156 boulevard Péreire, 75017 Paris  
REPRESENTATIVE: E. IACQUET-LAGRE-  
ZE, LAMSADE, Université de Paris Dauphine,  
Place du Maréchal de Lattre de Tassigny,  
75016 Paris.  
SECRETARY: Marie-France KALOGERA,  
General Delegate of AFCET, 156 boulevard  
Péreire, 75017 Paris

### 13. GERMANY, Federal Republic of :

Deutsche Gesellschaft für Operations Research  
F. V (German O. R. Society) (DGOR).  
PRESIDENT: Dipl.-Math. K.-P. SCHUSTER,  
Erikaweg 20 2112 Jesteburg.  
REPRESENTATIVE: Prof. Dr. D. PRESSM-  
AR, Universität HAMBURG, Ordinariat für  
Betriebswirtschaftliche Datenverarbeitung,  
Von-Melle-Park 5, D-2000 Hamburg 13  
SECRETARY: Mrs. Astrid SCHNEEWEISS,  
Lärchenweg 9. 6901 Wilhelmsfeld

### 14. GREECE :

Hellenic Operational Research Society  
(HELORS).  
PRESIDENT: Dr. Nicholas BLESSEOS,  
Solomou 20, 106 82 Athens.  
REPRESENTATIVE: Prof. Ioánnis A.  
PAPPAS, Chair for Industrial Management,  
National Technical University, 28is Oktovriou  
42, Athens 116 82  
SECRETARY: Apostolos BOBOS, Vatátzi 10,  
114 72 Athens

### 15. HONG KONG :

Operational Research Society of Hong Kong  
(ORSHK).  
PRESIDENT: Mr. Sean O'BROIN, Dept. of  
Mathematical Studies, Hong Kong Polytechnic,  
Hong Kong  
REPRESENTATIVE: The same as President.  
SECRETARY: Mr. James SINCLAIR, I. P.  
Sharp Associates (HK) Ltd., Suite 606, Tower  
1, Admiralty Centre